

数多くのスモールボートをラインナップするホープが、  
ここ数年姿を消していた17フィートの国産トレーラブルボートを登場させた。  
「RAIJIN」と名づけられたこのボートは、牽引免許不要で運べる最大サイズで、  
15フィート前後のトレーラブルボートからステップアップしたい人の心をくすぐるモデルに仕上がっている。

[文・写真] 近藤利紀  
[協力] リバーポートマリーナ



スモールボートの開発・製造実績が豊富なホープと、スズキの新型60馬力船外機、そして軽量なトレーラーの組み合わせにより実現した17フッタートレーラブルボート「RAIJIN」。フィッシングユースをメインにしたセンターコンソール艇だ

# HOPE RAIJIN R-1700CC

ホープRAIJIN R-1700CC

トレーラブルボートユーザーが待ち望んでいた17フッターが、  
パワフルな60馬力船外機を搭載して登場



角度は浅いが、スターンまで船底のVが続いている。チェーンはダブルで、スプ  
レーをきっちりと払い落とす。違う状況で3回試乗したが、コンソールで操船し  
ている限り、スプレーをかぶることはなかった

10年ほど前には、牽引免許不要  
で運べる17フィート前後のトレーラ  
ブルボートが各社から発売されて  
いたが、船外機が重量のある4ス  
トロークへ移行するとともに、ほと  
んど姿を消してしまった。そのた  
め、ここ数年は牽引免許不要の最  
大サイズは15フィートが主流となっ  
ていたわけだが、17フィート前後の  
ニーズは、多くのトレーラブルボー  
トユーザーから寄せられていた。  
そんな折、2009年にスズキの  
新型60馬力船外機が従来の40〜50  
馬力と同等の重量で登場したこと  
がきっかけとなり、ホープが「RA  
IJIN」を開発したのである。

船外機のほかに、ホープが専用  
で用意したトレーラーも、このモデ  
ルの実現に一役買っている。通常、  
17フィート前後のボートを積載す  
るトレーラーは車両重量が200  
〜250キロになり、牽引免許不  
要となる条件の「トレーラーと積  
載物の合計重量750キロ以下」に  
収めるためには、最大積載量が5  
00〜550キロになることが多い。  
しかし、RAIJINの専用ト  
レーラーは車両重量が150キロな  
ので最大積載量は600キロとな  
り、ボート+船外機の重量を最大  
限確保することができたのである。  
RAIJINは、複数の乗員が  
釣りをすることに主眼を置いて開  
発されているので、レイアウトも釣  
りで使いやすいものとなっている。  
立つて操船することが前提のコンソ  
ールは、2人が並べるようにステア  
リングを左舷側にオフセット。コン  
ソール内とシート下には大型のス  
トレージが用意され、法定備品な  
どはすべてこのなかに収まるので、  
パウヤスターンのストレージは最小  
限のサイズにして、船内スペースを  
広く取っている。  
パウデッキはエレキモーターが簡  
単に装着できるように、完全なフ  
ラット。またシーバスなどのキャス



乾舷を高くし、安全性も重視したデザインを採用している。大きめのコンソールには2人が並んでいられるように、ステアリングを左舷にオフセットしている。パウとスターンのレールはオプション



パウデッキの先端に立ってもボートのバランスはご覧のとおり。ビームが約2メートルあり、パウの張り出しも大きく浮力があるため、安心して釣りができる



2人乗りでは、ジェットボート並みのエキサイティングな走りをする。これだけのパワーがあれば、3~4人乗ってタックル類を満載してもストレスを感じることはないだろう

(右)立って操船することを前提としているため、コンソールボックスは高さがある。コンソールの前は大人2人でも座れるサイズのシートで、その内部はイケースだ  
(左)イタリア製のステアリングホイールがスポーティーなイメージを醸し出す。コンソール上部やパネルには複数の航海計器を装着できる。コンソール内もストレージとなっており、容量も十分



(上左)ボックス型シート内は二重構造になっており、スノコを外すと床下の収納スペースが現れる。ふだん使用しないものを収納しておける  
(上右)コンソール前のシート内部はイケース。かなりの容量があるため、使用しないときは水を抜いて閉じておいたほうがよい  
(左)スターンのストレージには、左舷側に携行型燃料タンク、右舷側にバッテリーが収まる。メインバッテリーのほかにサブバッテリーも設置可能だ。ストレージの上面は座るのに十分な面積がある

#### おもな仕様

#### ホープRAIJIN R-1700CC

●全長:4.92m ●全幅:1.98m ●全深さ:0.91m ●重量:約420kg ●最大搭載馬力:60馬力  
●定員:6名 ●航行区域:限定沿海 ●艇体価格:1,260,000円 ●エンジンセット価格:1,780,000円  
(スズキ60馬力)、1,680,000円(トーハツ50馬力) ●専用トレーラー価格:441,000円

#### ホープ

〒800-0112 福岡県北九州市門司区畑338-2 TEL:093-481-8080 <http://www.hope1970.co.jp/>

ティンクで釣り人が立つことも考えられており、オプションでキャスティングレールも用意されている。定員は6人。実際に6人乗ることとはないと思うが、ホープのテストでは、6人乗船でもストレスなく滑走して、満足のいく巡航スピードが得られたという。確かに空荷で2人乗船だと、フルスロットルにすると、かなり真剣に操船する必要があるほどのパワーである。

船底はVハルを採用しているために波切りがよく、この取材とは別の機会に、荒れ気味の海で乗ったときでも、走航性に不安はなかった。旋回は常識的な回転半径であれば、一定のバンク角を保つてスムーズに曲がっていく。中速であれば、旋回中に横波を受けても不安に感じるような挙動はない。

RAIJINは搭載船外機のパワーに余裕があるので、初めて乗る人がフルスロットルにするのは注意が必要だ。一方、いま15フィート前後のボートに乗っていて、パワー不足や船内の狭さに不満を持っている人には最適なボートだといえる。また、より大きなボートからトレーラブルボートへ乗り換えを検討している人にもおすすめできる。特に大馬力エンジンのボートに乗っていた人は、燃費のよさに驚くことだろう。



(上)エレキモーターの取り付けも考慮され、パウデッキはフラット。ハッチ内はアンカーストレージとなっている。手前のハッチもストレージで、中型のタックルボックスが収納できる  
(下)スターンのストレージ後端にコーミングが立ち上がっているためモーターウェルは深く、急停止しても船内に追い波はい上がることはまずない。釣りが快適にできる波高なら、トモ流しも問題ないだろう